知床半島将来ビジョン ゾーニングとイメージ（案）について

- 本資料は、「知床国立公園のあり方に関する懇談会」（2017-2018）において、知床全体の利用の将来的ビジョンとしてとりまとめたものである。
- 知床の核心である先端部地区の利用適正化基本計画は、長年の議論の末にまとめられたが、国立公園管理計画に包含したとして解消された。また、エコツーリズム戦略により多様な利用提案がなされるなど、知床国立公園の利用の基本方針が揺らぎ、見えづらくなった。そのため、地域関係団体・機関が結集し、公園内外を包含した知床全体の将来にわたる利用のあり方の骨格を再構築する必要があるということで、本懇談会は結成された。懇談会は2017年度より2年間（計6回）にわたる真摯な議論を継続した。
- 本資料は、知床国立公園の利用のあり方を検討するにあたっては、全体のゾーニングに基づく将来イメージを共有することが重要という考えの下、2017年度第3回懇談会（2018年3月1日）において地域より提起され、以降、第6回懇談会（通算）まで継続的に議論されたものである。
- 2019年2月19日の第6回懇談会にて、両町役場を含む地域関係団体は、このゾーン区分と利用のあり方のイメージについて、将来めざす大枠の方向性として合意した。利用の詳細な内容や想定人数、具体的な方策、達成時期などは、イメージを共有して議論するためのたたき台として示されたが、細部についてはさらなる検討が必要である。
- 本案は現時点で、既存のルールや法制度との整合性を細部にわたり確認したものではなく、あるべき将来像である。また、知床世界自然遺産地域の管理者（環境省・林野庁・北海道）が実行を約束するものではないが、地域の総意として尊重されるべきものである。

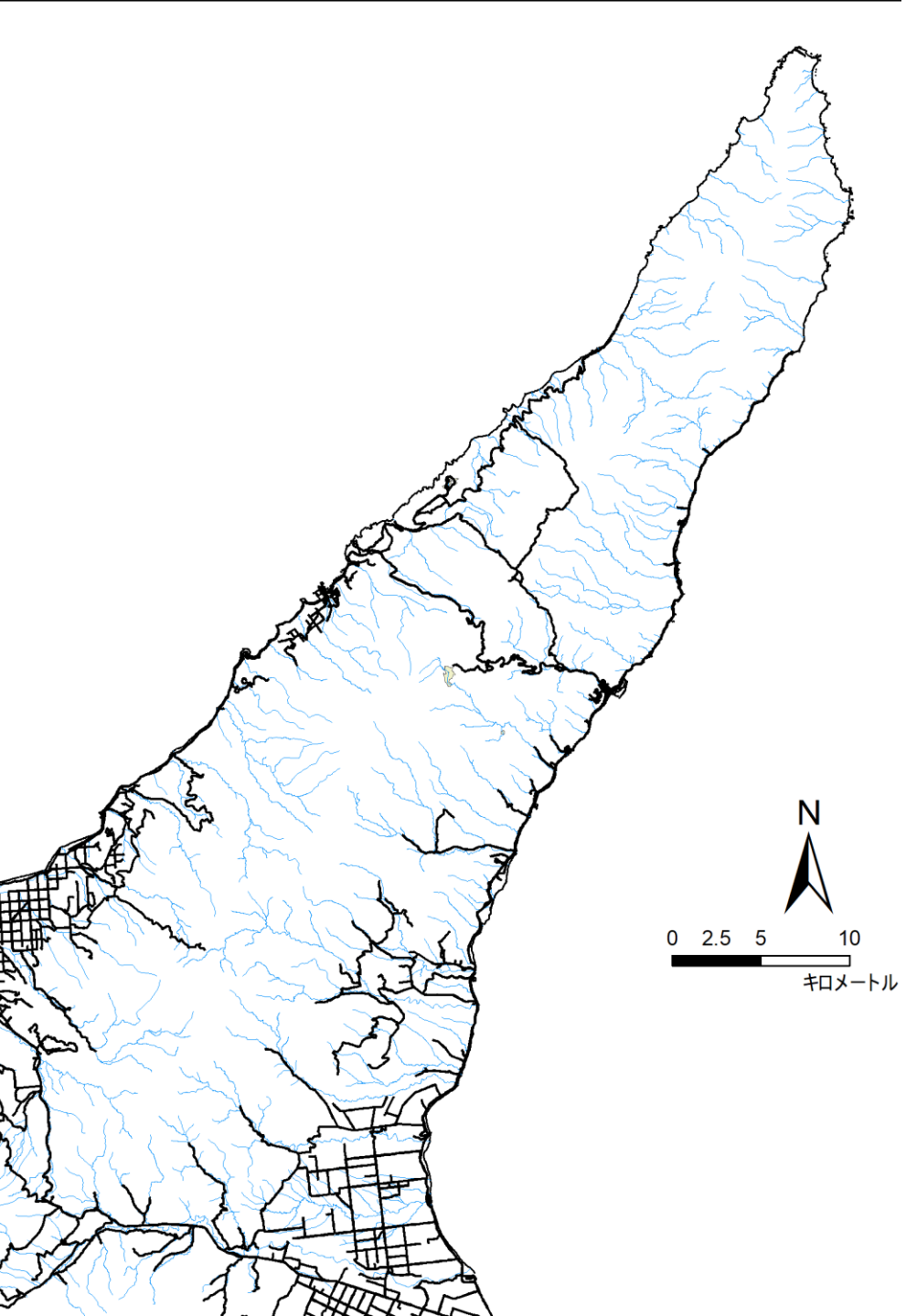
（知床国立公園のあり方に関する懇談会　構成メンバー）

1）地域関係団体

ウトロ地域協議会、ウトロ漁業協同組合、斜里第一漁業協同組合、知床斜里町観光協会、知床ガイド協議会、斜里山岳会、知床自然保護協会、斜里町小型観光船協議会、（一財）自然公園財団、（公財）知床財団 、斜里町立知床博物館、羅臼漁業協同組合、知床羅臼町観光協会、羅臼山岳会、知床羅臼観光船協議会、羅臼遊漁釣り部会、羅臼町郷土資料館

2）関係行政機関

斜里町、羅臼町、北海道、環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局



知床半島将来ビジョン
ゾーニングとイメージ（案）

「知床国立公園のあり方に関する懇談会」2019年2月19日

①先端部地区全域
冒険と原生の旅

②羅臼側先端部海岸線ルサ～観音岩
番屋の営み、フィッシャリーツーリズム

③先端部地区ルシャ
知床の核心を見る、ワイルドライフウォッチング

④ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ
多様な知床体験ニーズに応える

⑤羅臼湖・横断道路沿線地域
知床峠の景観を楽しむ手軽な周遊観光と羅臼湖での奥知床体験

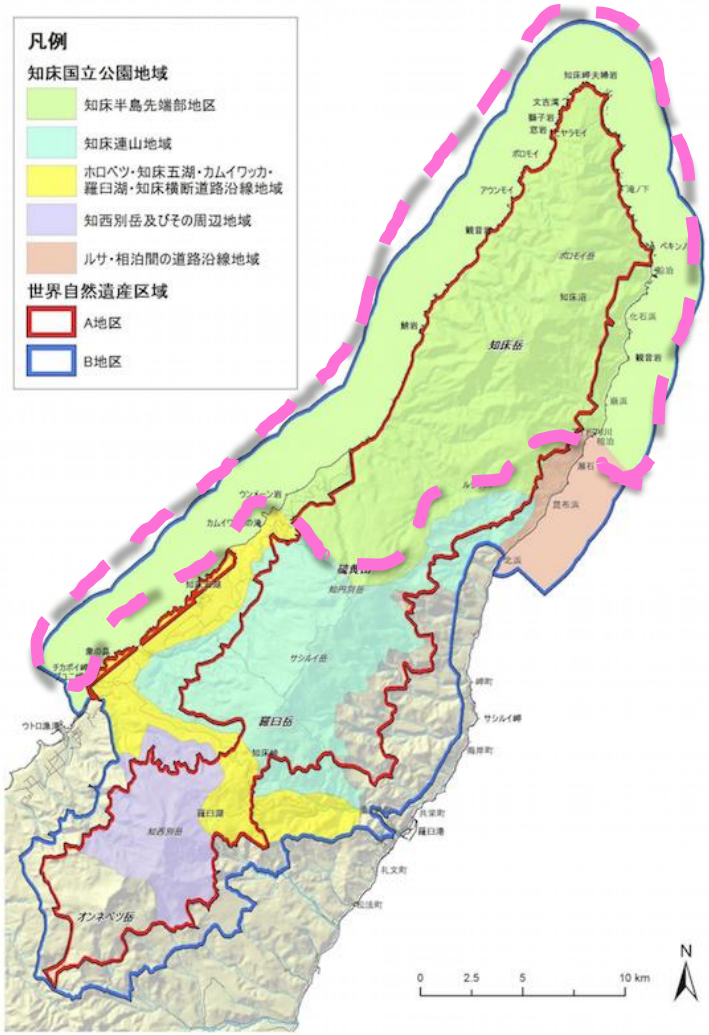
⑥知床連山地域
知床を象徴する山並み、両側に海を眺む希有な山岳体験の場

⑦知西別岳及びその周辺地域
人気の少ない知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールドとしての展開を探る

⑧先端部地域沿岸海域
シャチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流氷が創り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる

⑨半島基部　斜里岳・海別岳山麓
雄大な農業景観と知床ならではの背景の組み合わせは感動を呼ぶ

先端部地区全域： 冒険と原生の旅



本州の箱庭的、あるいはスポーツ的登山やトレッキングとは全く一線を画した「冒険と原生の旅」。ヒグマとの出会いや険しい地形、荒れる海のリスクを乗り越えて、野営しながらたどり着く感動の到達感、日本離れした大風景と非日常の秘境感を提供することに特化する。
旅の過程で、豊かな海を糧に生きる人々との出会いや交流も大切な思い出となる。

形態： 海岸トレッキング（主に羅臼側）
半島周回カヤッキング
原生の山の縦走と沢登り（登山）

遺産地域区分：陸域の大部分はA地区。斜里側の小面積の一部と羅臼側の南部低標高域はB地区。

国有林管理区分：知床森林生態系保護地域　保存地区、保全利用地区。

国立公園区分：陸域のほとんどは特保、斜里側の小面積の一部は第3種特別地域、羅臼側の南部低標高域は第1種及び第3種特別地域。

受入想定人数： 2000～3000人／年（150日程度）

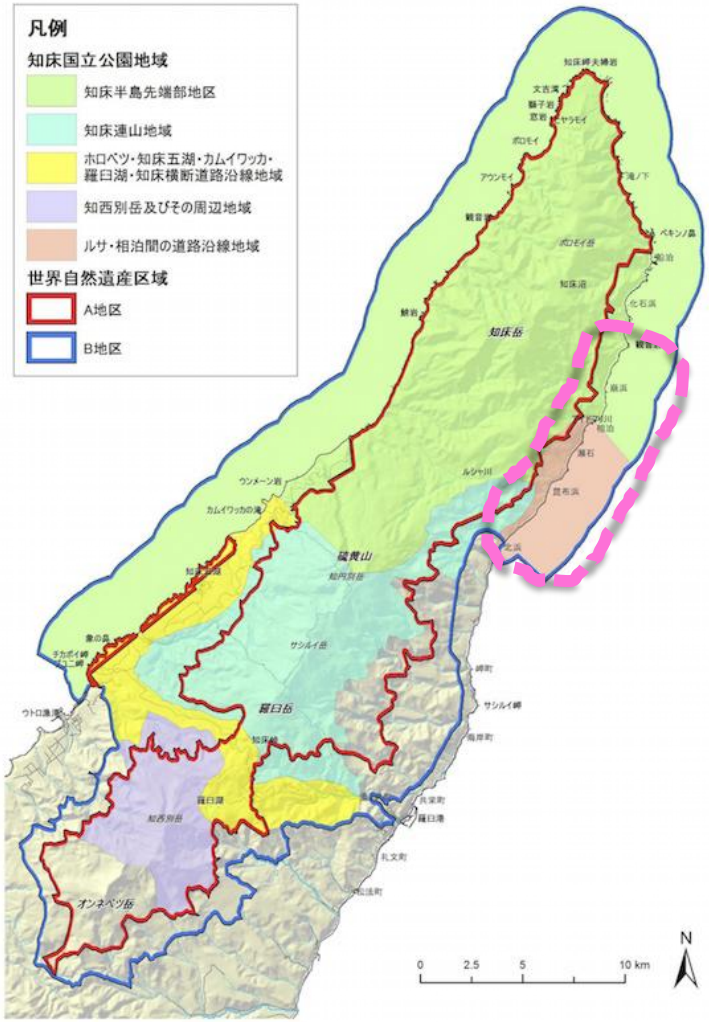
地域への経済効果：

1）斜里側からのカヤッカー（一部登山者とトレッカー）、羅臼側からのトレッカー＆カヤッカー、登山者は前日入り、レクチャー受講を義務化。小規模宿泊施設への貢献。

2）トレッカーと登山者の帰還は、何らかの形で小型瀬渡し船を容認。遊漁釣り船事業者へ貢献。

3）主要野営地には小規模なヒュッテ（番屋改造含む）を整備、維持管理費は地元へ

4）ガイド事業の展開



ルサ・相泊間の道路沿線、及び、観音岩以南の先端部地区：番屋の営み、フィッシャリーツーリズム

羅臼の豊かな海を糧に、「番屋」という知床ならではの営みの場における暮らしを積極的に発信。浜に根ざして生きる人々との出会いや交流も重要な体験要素とする。

形態：　コンブ漁体験や番屋暮らし体験
河口&海岸マス釣り
日帰り海岸トレッキング

遺産地域区分：　陸域はB地区。

国有林管理区分：知床森林生態系保護地域　保全利用地区。

国立公園区分：　陸域のほとんど第3種特別地域、一部海岸は第1種特別地域。

受入想定人数：　３000人前後／年（180日程度）

地域への経済効果：　１）番屋における漁業活動など見学謝金など。

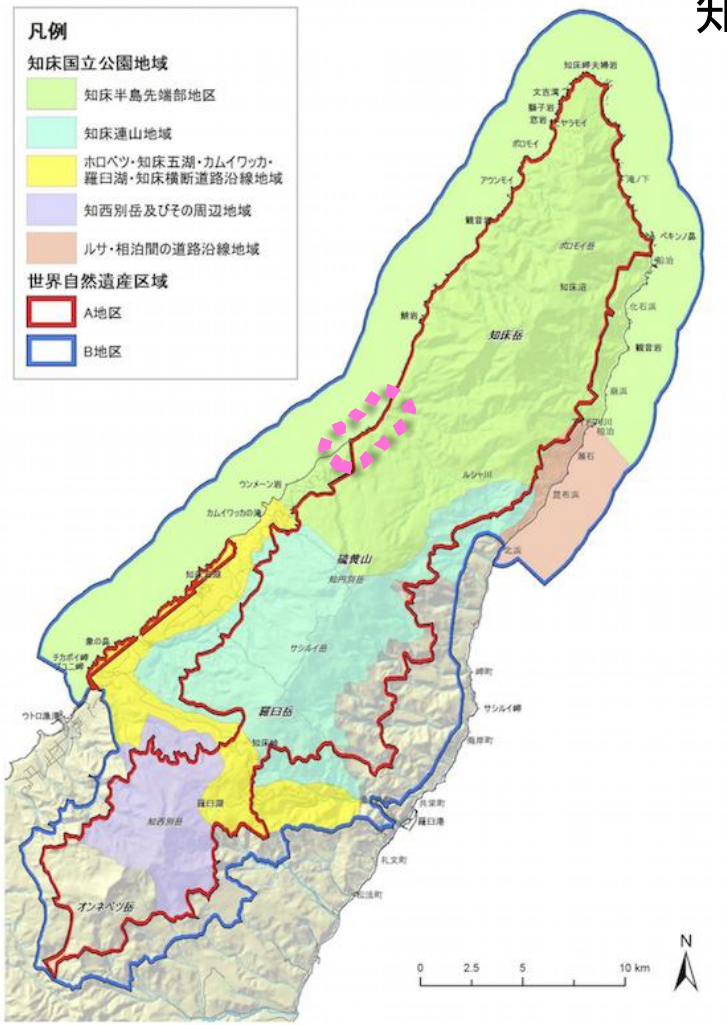
２）釣り人やフィッシャリーツーリストの送迎による遊漁釣り船事業者へ貢献。

３）コンブなどの直販、通販につなげていく。

４）ガイド事業の展開

課題：　漁業施設や番屋の家並み（雰囲気）、道路法面の修景。

先端部地区ルシャ:
知床の核心を見る、ワイルドライフウォッチング



サケマスの遡上・産卵とヒグマや猛禽類などの捕食による陸と海の繋がり、世界遺産の核心を学ぶ。
圧倒的なヒグマ体験。全国で爆発するクマ問題への普及啓発の場、人々を思考停止にしてしまっている恐怖の猛獣という誤解を解き、自然な生き様を知る場とする。共存の道を模索するきっかけ作りの場とする。

形態： 野生動物観察
野生との共存の可能性を普及啓発する自然教育

遺産地域区分： A地区。

国有林管理区分：知床森林生態系保護地域　保全利用地区。

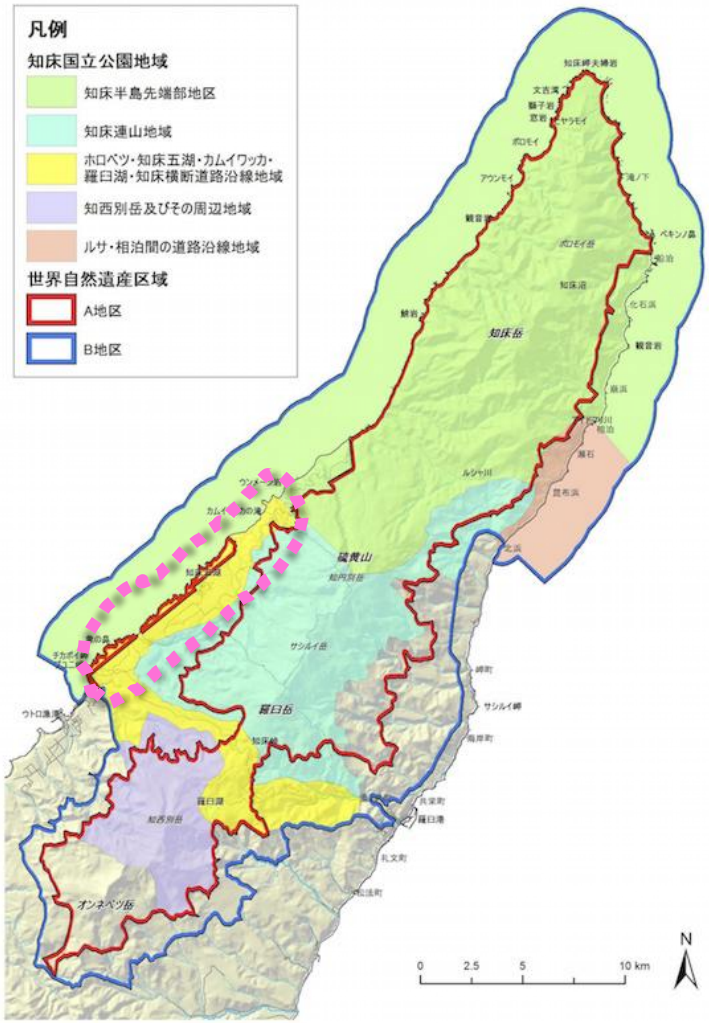
国立公園区分： 特保　（鳥獣保護区特別保護指定区域）

受入想定人数： 1500人前後／年（10人x150日程度）

地域への経済効果：
1）前日までのウトロ入りを基本とする。小規模宿泊施設への貢献。
2）専門管理員を雇用（雇用創出）
3）現地への交通手段に関わる雇用創出（船?、車両？）
4）ヒグマをはじめ他ではなかなか見れない野生動物の存在が知床への来訪動機となっている。

課題： 現地への到達方法：トレッキング？、船舶？、車両？

ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ地域：多様な知床体験ニーズに応える



観光バスやシャトルバスを利用した周遊観光から、比較的手軽なバックカントリー利用まで多様なニーズに応えることができる地域として活用していく。陳腐化させることなく他と差別化した知床独自の体験を提供する工夫、ヒグマ等との軋轢回避対策が求められる。

形態：　知床五湖高架木道の周遊観光と地上歩道ガイドツアー
シャトルバスによる周遊、風景探勝、動物観察
カムイワッカ湯の滝、ワッカ園地における観光利用
幌別川河口サケマス釣り

遺産地域区分：　B地区（一部海岸段丘縁部がA地区）

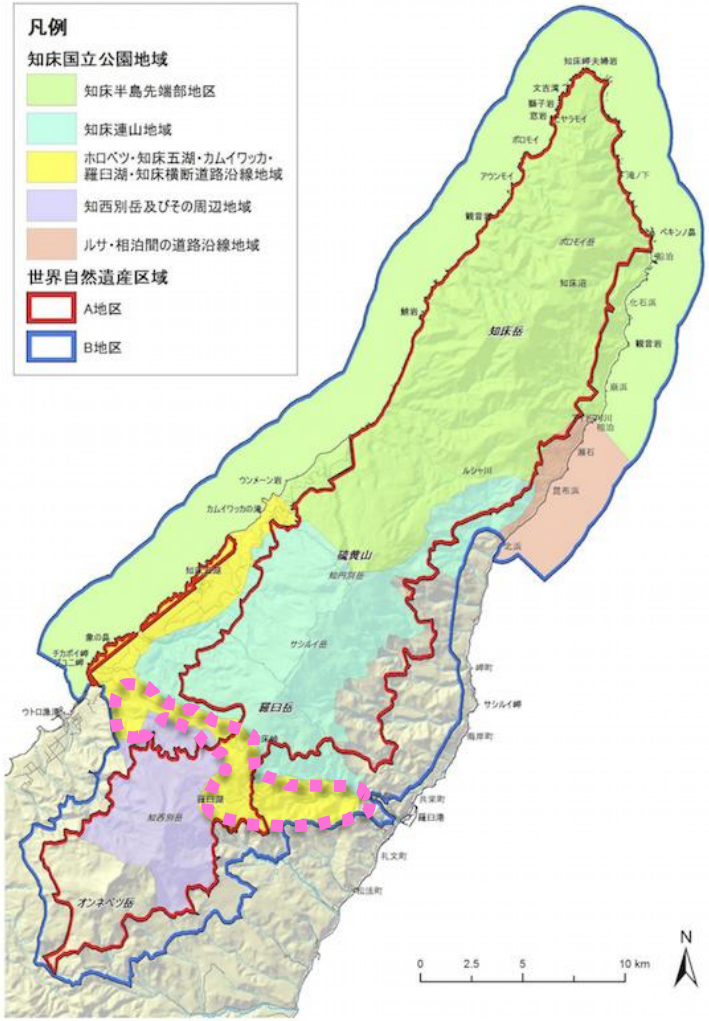
国有林管理区分：知床森林生態系保護地域　保存地区、保全利用地区、自然観察教育林。

国立公園区分：　知床五湖周辺は特保、他は第二種特別地域

受入想定人数：　50～60万人／年

地域への経済効果：
1）知床五湖は知床への来訪動機の大きな部分を占める
2）知床自然センター、幌別園地管理による雇用創出、知床自然センター売店／カフェによる収益。
3）知床五湖管理による雇用創出、パークサービスセンターにおける収益。
4）地元事業者によるシャトルバス等の運行
5）ガイド事業の展開

課題：　運動地の森の利用のあり方検討、冬期のバックカントリー利用を基本とした知床五湖のあり方を再検討



羅臼湖・横断道路沿線地域：知床峠の景観を楽しむ手軽な周遊観光と羅臼湖での奥知床体験

車両を利用した周遊観光から、2時間程度で比較的手軽な高山バックカントリー体験が可能な羅臼湖、深い森を味わうことができるポンホロ沼などを楽しむ。

形態：　観光バス、マイカーによる横断道路の周遊観光
羅臼湖やポンホロ沼トレッキング
クマ越えの滝、湯ノ沢園地などの散策

遺産地域区分：　A地区とB地区が混在

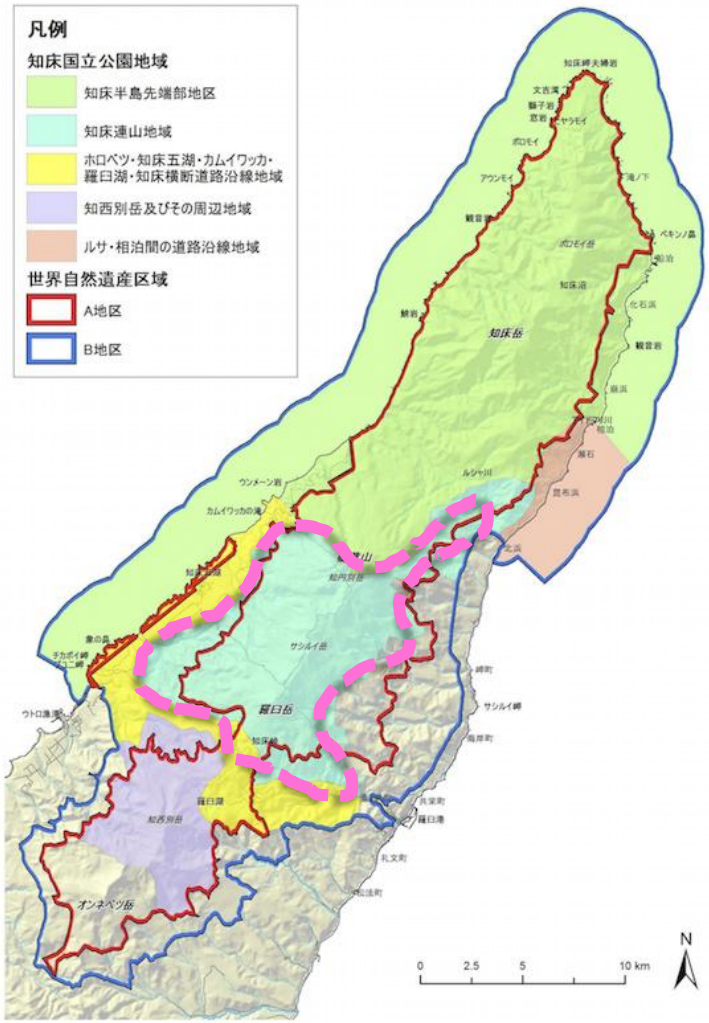
国有林管理区分：知床森林生態系保護地域　保全利用地区。

国立公園区分：　第一種及び第二種特別地域

受入想定人数：　100万人？／年（羅臼湖やポンホロ沼は2000人前後）

地域への経済効果：　1）知床峠からの眺望は知床への来訪動機の比較的大きな部分を占める。

2）ガイド事業の展開



知床連山地域：知床を象徴する山並み、両側に海を眺む希有な山岳体験の場

海にそそり立つ連山の稜線に到達する満足感。眼下の両側は海、はるか国後島・エトロフ島までの眺望は、他では得がたい感動を得ることができる。
広大なハイマツ帯や雪田群落の高山植物も知床の山の魅力である。
基本的に中級以上の登山者を対象とした山域として管理し、必要以上の整備は行わない。

形態： 登山（羅臼岳・硫黄山の登頂、あるいは縦走）

遺産地域区分： 稜線と高標高域はA地区、山麓部はB地区

国有林管理区分：知床森林生態系保護地域　保存地区。

国立公園区分： 稜線部は特保、他は第二種及び第三種特別地域

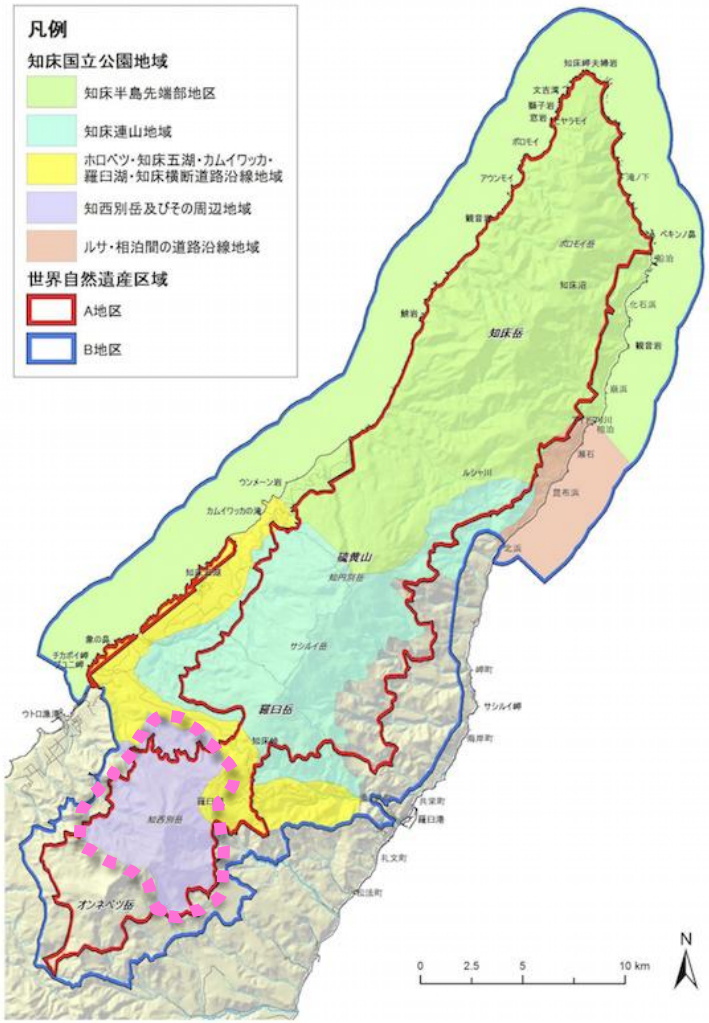
受入想定人数： 7000～8000人／年

地域への経済効果： 1）登山者の事前事後の宿泊等。

2）ガイド事業の展開

課題： 岩尾別登山口の駐車スペース、交通システムのあり方検討

今後充実が必要となる可能性が高いヒグマ対策のあり方



知西別岳及びその周辺地域：人気の少ない知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールドとしての展開を探る

羅臼湖入口へのアクセス方法を検討できれば、残雪期のすばらしいフィールドになり得る。根室海峡にめがけて滑り下る知西別岳から湯ノ沢までのロングダウンヒルコースは感動もの。

形態： バックカントリースキー
スノーシュートレッキング

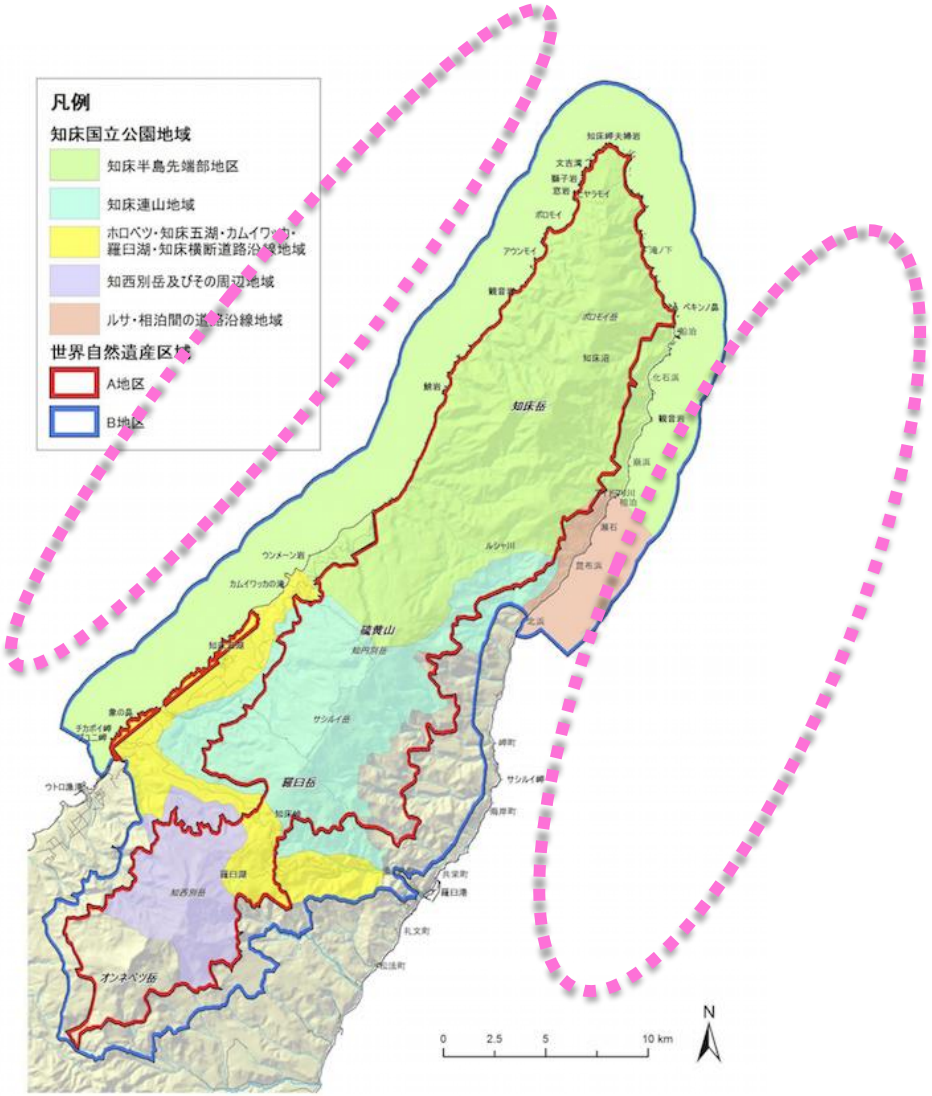
遺産地域区分： A地区

国有林管理区分：知床森林生態系保護地域　保存地区。

国立公園区分： 特保と第一種特別地域

受入想定人数： 1000人？／年

地域への経済効果： 1）ガイド事業の展開



先端部地域沿岸海域、根室海峡：シャチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流氷が創り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる

ウトロ～知床岬に続く絶壁と大風景、海岸で見ることができるヒグマや猛禽類、海鳥など野生との出会いの濃さは知床ならでは。
豊穣の海、根室海峡はシャチやクジラ、イルカなど大型海産哺乳類との感動の出会いの場。大型猛禽、トド、アザラシ類を対象とする冬期の観光船事業も充実が望まれる。

形態： 観光船による周遊

遺産地域区分： 海域の一部はB地区

国立公園区分： 海域の一部は普通地域

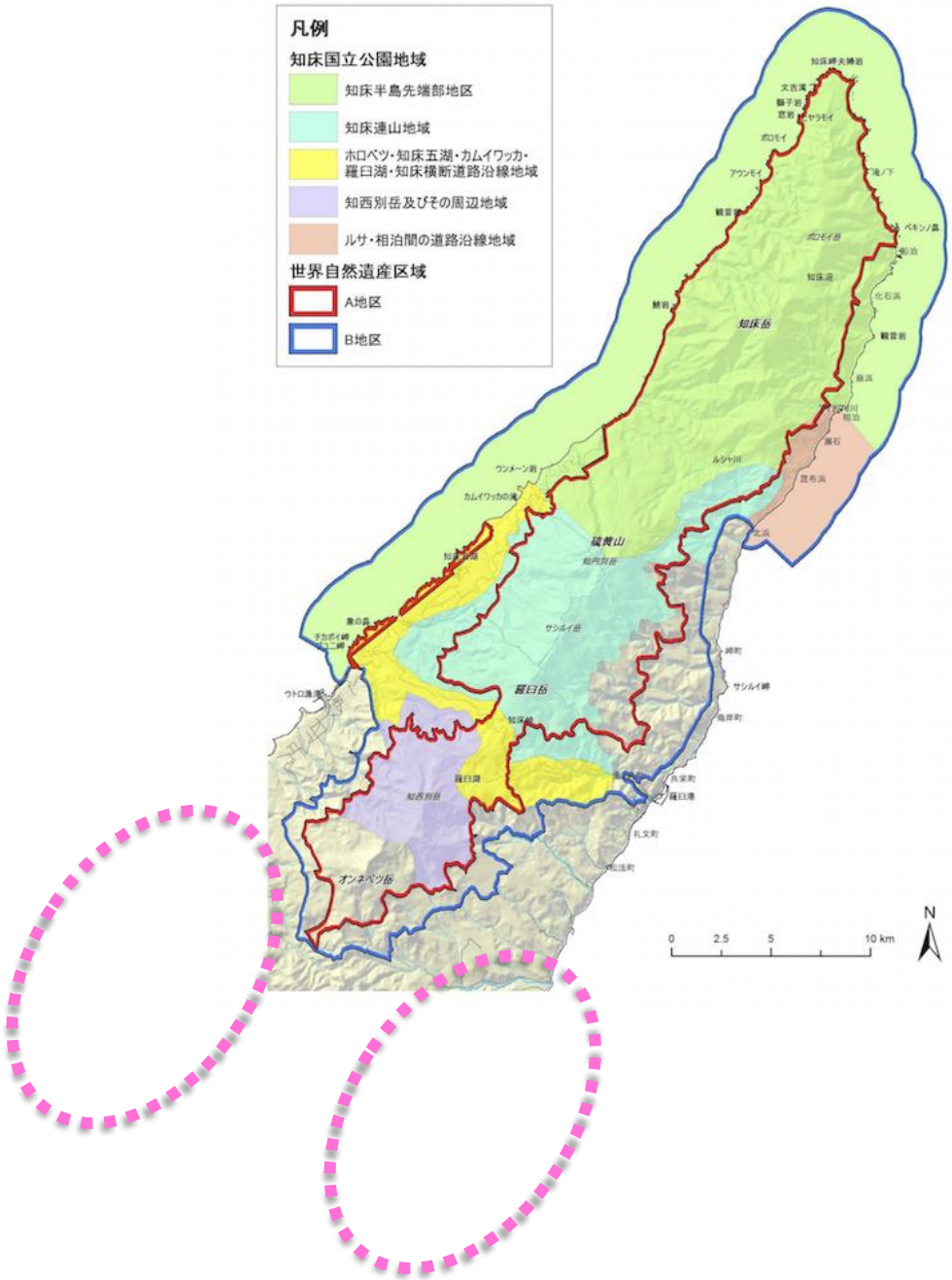
受入想定人数： 10万人前後／年

地域への経済効果： 1）観光船事業の展開（運行事業者、乗組員の雇用、燃料供給なども）

2）観光船による周遊観光自体が、が知床への来訪の大きな動機となっている。

課題： 悪天候・濃霧の際の代替観光

流氷期も運行可能な観光船への設備投資



半島基部地域： 斜里岳・海別岳山麓から斜里平野、峯浜地区牧場地域 雄大な農業景観と知床ならではの背景の組み合わせは感動を呼ぶ

斜里平野から周辺の山間野山麓部については、人気の観光地である富良野盆地周辺に比して勝るとも劣らない美しい風景を有している。 また、峯浜地区の広大な牧草地とはるかに望む根室海峡・国後島の風景も実は大きな潜在性を有している。

しかし、そこに欠けているのは来訪者をもてなす仕組みや人の存在、そして魅力的な「食」である。両地域で生産される畑作物や畜産物、そして知床ならではの海の幸を洒落た形で提供できる宿泊施設・レストラン等を展開し、知床の観光の新たな分野を切り開く。乗馬やスノーモービルのツーリングコースの設定など、国立公園内では難しいアクティビティの展開も可能だろう。

形態： 滞在型アクティビティ、知床ならではの食の提供

遺産地域区分： 遺産地域外

国立公園区分： 国立公園外

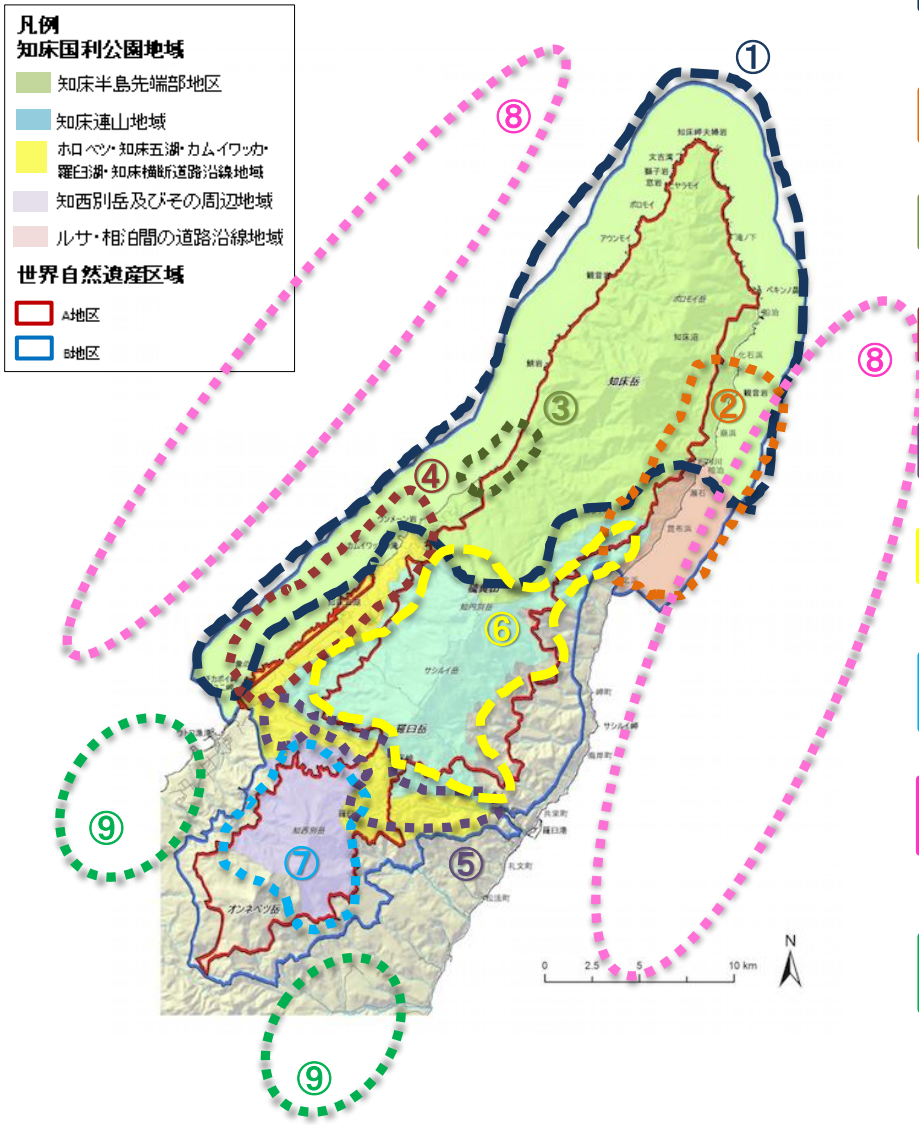
受入想定人数： ？／年

地域への経済効果： 1）ペンション、オーベルジュなど小規模・高付加価値宿泊施設などの展開

2）地場産品の販路開拓、直販&通販

3）ガイド事業の発展

2017年～2018年度開催「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」
資料：ゾーニングとイメージ（案） より抜粋



①先端部地区全域 （冒険と原生の旅）

容易にアクセスできるフィールドでのアクティビティやスポーツ的登山、トレッキングとは一線を画した「冒険と原生の旅」。ヒグマとの出会いや険しい地形、荒れる海のリスクを乗り越えて、野営しながらたどり着く感動の到達感、日本離れした大風景と非日常の秘境感を提供することに特化する。旅の過程で、豊かな海を糧に生きる人々との出会いや交流も大切な思い出となる。

②羅臼側先端部海岸線ルサ～観音岩 （番屋の営み、フィッシャリーツーリズム）

羅臼の豊かな海を糧に、「番屋」という知床ならではの営みの場における暮らしを積極的に発信。浜に根ざして生きる人々との出会いや交流も重要な体験要素とする。

③先端部地区ルシャ （知床の核心を見る、ワイルドライフウォッチング）

サケマスの遡上・産卵とヒグマや猛禽類などの捕食による陸と海の繋がり、世界遺産の核心を学ぶ。圧倒的なヒグマ体験。全国で爆発するクマ問題への普及啓発の場、人々を思考停止にしてしまっている恐怖の猛獣という誤解を解き、自然な生き様を知る場とする。共存の道を模索するきっかけ作りの場とする。

④ホロベツ・知床五湖・カムイワッカ （多様な知床体験ニーズに応える）

観光バスやシャトルバスを利用した周遊観光から、比較的手軽なバックカントリー利用まで多様なニーズに応えることができる地域として活用していく。陳腐化させることなく他と差別化した知床独自の体験を提供する工夫、ヒグマ等との軋轢回避対策が求められる。

⑤羅臼湖・横断道路沿線地域 （知床峠の景観を楽しむ手軽な周遊観光と羅臼湖での奥知床体験）

車両を利用した周遊観光から、2時間程度で比較的手軽な高山バックカントリー体験が可能な羅臼湖、深い森を味わうことができるポンホロ沼などを楽しむ。

⑥知床連山地域 （知床を象徴する山並み、両側に海を眺む希有な山岳体験の場）

海にそそり立つ連山の稜線に到達する満足感。眼下の両側は海、はるか国後島・エトロフ島までの眺望は、他では得がたい感動を得ることができる。広大なハイマツ帯や雪田群落の高山植物も知床の山の魅力である。基本的に中級以上の登山者を対象とした山域として管理し、必要以上の整備は行わない。

⑦知西別岳及びその周辺地域
（人気の少ない知床らしい山域、残雪期のアウトドアフィールドとしての展開を探る）

羅臼湖入口へのアクセス方法を検討できれば、残雪期のすばらしいフィールドになり得る。根室海峡にめがけて滑り下る知西別岳から湯ノ沢までのロングダウンヒルコースは感動もの。

⑧先端部地域沿岸海域
（シャチ、マッコウが躍動する感動海峡、火山と流氷が創り出した断崖絶壁、渚のヒグマは珠玉の思い出となる）

ウトロ～知床岬に続く絶壁と大風景、海岸で見ることができるヒグマや猛禽類、海鳥など野生との出会いの濃さは知床ならでは。豊穣の海、根室海峡はシャチやクジラ、イルカなど大型海産哺乳類との感動の出会いの場。大型猛禽、トド、アザラシ類を対象とする冬期の観光船事業も充実が望まれる。

⑨半島基部 斜里岳・海別岳山麓
（雄大な農業景観と知床ならではの背景の組み合わせは感動を呼ぶ）

斜里平野から周辺の山間野山麓部については、人気の観光地である富良野盆地周辺に比して勝るとも劣らない美しい風景を有している。 また、峯浜地区の広大な牧草地とはるかに望む根室海峡・国後島の風景も実は大きな潜在性を有している。しかし、そこに欠けているのは来訪者をもてなす仕組みや人の存在、そして魅力的な「食」である。両地域で生産される畑作物や畜産物、そして知床ならではの海の幸を洒落た形で提供できる宿泊施設・レストラン等を展開し、知床の観光の新たな分野を切り開く。乗馬やスノーモービルのツーリングコースの設定など、国立公園内では難しいアクティビティの展開も可能だろう。